

左上大静脈遺残の影響が疑われた左鎖骨下静脈狭窄の1例

井上 英行¹, 川地 慧子¹, 梶本 克也¹, 大坪 茂², 葛原 敬八郎³

1) 関川会関川病院, 2) 大坪会三軒茶屋病院, 3) 国民健康保険宇検診療所

【症例】70歳, 男性.

【既往症】糖尿病, 高血圧症.

【現病歴】4年前に糖尿病性腎症による慢性腎不全のため血液透析導入となり, 左手首の橈骨動脈-橈側皮静脈瘻をバスキュラーアクセスとして透析が行われていた. 1カ月前から左上肢の腫脹があり, 精査目的で当院に紹介となった.

【経過】血管造影では左腕頭静脈が造影されず, 左上大静脈遺残がみられた. 左上大静脈遺残末梢側の狭窄に対してPTAを施行し(図1), その後, 上肢の腫脹は改善した.

【考察】手首部の橈骨動脈-橈側皮静脈瘻では吻合部や吻合部近傍に狭窄をきたす症例が多く, 中枢の静脈で初発する症例は稀である. 左上大静脈遺残による血管走行異常が狭窄の一因となった可能性があり, 今後の症例の蓄積が待たれる.

